

「水が生まれる信濃おおまち」 サステナブル・タウン推進事業

実施団体：大町市



地域の特徴と活動背景

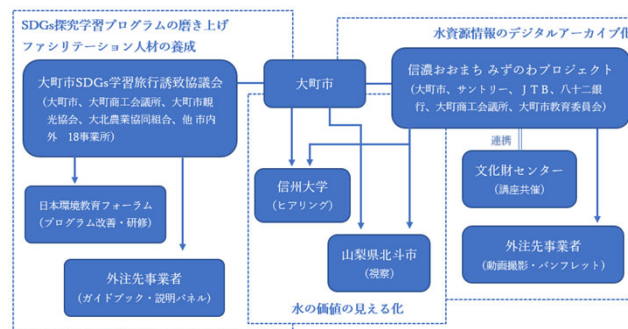
【地域の特徴】

- 北アルプスを源とする地下水や清冽な雪解け水が流れる高瀬川などの河川が流れ、青木湖など三つの天然湖が連なる仁科三湖、三つの人造湖があり、豊富な水資源を有する
- SDGs 未来都市選定を機に、「信濃おおまち みずのわプロジェクト」を設立し、「水」による地域ブランド振興に取り組む

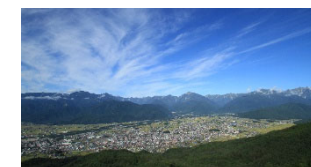
【地域課題】

- 市民の多くが「水」を当たり前にあるものと思っており、地域資源を活用するという価値の活用が不十分
- SDGs学習旅行誘致協議会を設立し誘致活動を展開しているが県外への周知が課題

モデル事業の実施体制



長野県大町市
信濃川水系最上流部



大町市の風景



最大の水源「矢沢源流」

R5年度モデル事業における取組内容および成果

水資源情報のデジタルアーカイブ化

- 「おおまち水の歴史」講座をテーマ別に3回開催（計83名参加）
- 講座の記録撮影・編集、文字起こしを実施
- 記録をもとにパンフレットのデータを作成



パンフレット作成



編集動画

SDGs探究学習プログラムの磨き上げ

- 事業所視察研修（5回36名）、市民見学会（7回115名）、地元中学生総合学習（180名）、旅行会社モニターツアー（25名）を実施
- 参加者の意見を事業者にフィードバックし、ガイドブックにも反映

ガイドブック



地元中学生が体験

ファシリテーション人材の養成

- ファシリテーター養成研修を実施（3回6名）
- SDGs学習旅行に関するJEEF研修会の開催（20名）
- 現地説明時に活用する大型説明パネルを作製し、ガイドレベルを平準化



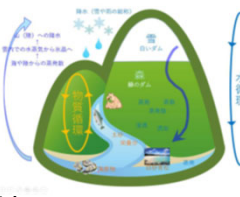
JEEF研修会実施



大型説明パネル

水の価値の見える化

- 協議会による地下水利用企業との協力に係る先進事例を視察、意見交換（視察先：北杜市）
- 地域の水収支に詳しい専門家へのヒアリングの実施（信州大学 中屋教授）
- 恵まれた地下水を将来も安定的に利用できるようにすることを目的に水の循環収支を可視化・整理する手法を検討



水循環イメージ図

今後の課題および取組方針

- 水資源の掘り起こしにより情報を追加収集・整備するとともに、HPやSNSによる情報発信や水スポットの整備等に活用
- 修学旅行だけでなく林間学校などの学校行事にも拡大し、SDGs学習旅行の誘致機会を拡大
- 地下水観測結果に対する専門家による評価を実施し、安定的な利用に向けた地下水保全の取組推進につなげる